

社会貢献活動

社会貢献に対する考え方

当社は、持続可能な社会の実現に貢献するために、「小野薬品社会貢献グローバルポリシー」のもと、さまざまな社会貢献活動を行っています。現在および将来の事業活動との関連性や自社の経営資源を考慮し、当社が注力すべき重点分野を決めたうえで取り組みを推進しています。

小野薬品社会貢献グローバルポリシー

小野薬品は「病気と苦痛に対する人間の闘いのために」という企業理念のもと、医学・薬学の発展はもとより、「良き企業市民」として、社会の持続的な発展に貢献します。また、これらの取り組みを通じて、SDGsの達成にも貢献します。本グローバルポリシーは、海外子会社にも適応されます。

- 医学・薬学の発展に貢献します。
- 患者さんとその家族の健康に貢献します。
- あらゆる生命の存続に資する環境保全に貢献します。
- 子どもたちの健康につながる教育に貢献します。
- 医療環境の整備に貢献します。

上記活動に関する慈善寄付に関しては、透明性をもって実施します。

対象エリアは当社が事業活動を行う地域と医療基盤が未成熟な地域*とします。

* 世界銀行が定める低所得国及び低中所得国など

低所得国：<http://data.worldbank.org/income-level/low-income>

低中所得国：<https://data.worldbank.org/income-level/lower-middle-income>

会社と社員の協力のもと、そして志を同じくするステークホルダーとパートナーシップを組み、社会貢献に取り組みます。

取り組み一覧

	関連する SDGs	取り組み
<u>医学・薬学の発展のための取り組み</u>	 	<ul style="list-style-type: none"> ・公益財団法人 小野医学研究財団を通じた研究助成 ・ONO Pharma Foundationを通じた研究助成 ・公益財団法人 小野薬品がん・免疫・神経研究財団を通じた研究助成 ・公益社団法人 日本生化学会を通じた研究助成
<u>患者さんとその家族のための取り組み</u>		<ul style="list-style-type: none"> ・WEBサイトやアプリを通じた医療情報の発信 ・市民公開セミナーへの協力・開催 ・ラジオ番組『Changeの瞬間～がんサバイバーストーリー』を通じた情報提供 ・リレー・フォー・ライフへの参加 ・スポーツを通じた長期療養児の支援 ・闘病中の子どもたちへのスノーギフト ・がん患者さんのメンタルヘルスケア活動（台湾） ・がん患者さんの支援（米国） ・小児がんの子どもたちとご家族の支援（韓国） ・脳腫瘍患者さんの支援（英国） ・献血の実施
<u>あらゆる生命の存続に資する環境保全</u>	  	<ul style="list-style-type: none"> ・各事業所における取り組み
<u>子どもたちの健康につながる教育</u>	 	<ul style="list-style-type: none"> ・理科の出張授業（薬のヒミツ・マナブ） ・高等学校でのがん教育に対する取り組み ・歯ブラシの寄贈 ・一般財団法人舞台芸術センター／劇団四季主催「こころの劇場」関西公演への協賛
<u>医療環境の整備のための取り組み</u>	 	<ul style="list-style-type: none"> ・ONO Bridge Projectを通じた取り組み

医学・薬学の発展のための取り組み

当社は、いまだ満たされていない医療ニーズに応え、医学・薬学の発展に寄与する取り組みを行っています。

財団を通じての研究助成

当社は、医学・薬学の発展のため公益財団法人に寄付や研究助成を行っています。

公益財団法人小野医学研究財団

本財団は、脂質代謝異常の分野に関する研究助成を行うほか、各種事業を通じて、当分野の治療や研究の振興を図り、国民の健康と福祉に貢献しています。設立以来毎年、研究助成および研究奨励助成を行っており、2023年度には、早石修記念賞1名、研究助成対象者15名、研究奨励助成対象者（満43歳以下）16名が、それぞれ選ばれました。

＞ 詳細は「公益財団法人小野医学研究財団」のホームページをご覧ください。

ONO Pharma Foundation

本財団は、特定の科学研究分野における創造的なアイデアを持つ科学者の主任研究員（「PI：Principal Investigator」）を支援することを目的としています。研究助成を通じて、患者さんの画期的な治療につながるイノベーションの支援、若手研究者の研究促進等に貢献しています。

＞ 詳細は「ONO Pharma Foundation」のホームページ（英語）をご覧ください。

公益財団法人「小野薬品がん・免疫・神経研究財団」

2022年度に設立した本財団では多くのアンメットメディカルニーズが残るがん・免疫・神経の領域において、画期的な研究成果（Breakthrough）に繋がる最先端の科学・研究者を支援することによって世界の人々の健康に貢献することを目指しています。2023年度の研究助成対象者として、2024年2月にがん・免疫・神経それぞれの領域で各3名、計9名の方が選ばれました。

＞ 詳細は「公益財団法人 小野薬品がん・免疫・神経研究財団」のホームページをご覧ください。

公益社団法人日本生化学会「早石修記念海外留学助成」

生命科学全般に関わる生化学研究に意欲的な研究者の海外留学のための新事業「早石修記念海外留学助成」に対し、2017年度から支援を行っています。2024年度の対象者として、2023年10月に5名の研究者の方への支援が採択されています。

＞ 詳細は公益社団法人日本生化学会「早石修記念海外留学助成」のページをご覧ください。

患者さんとその家族のための取り組み

当社は患者さんとその家族をはじめとして、広く人々の健康に資するために、さまざまな活動に取り組んでいます。今後も人々の健康の一助になるさまざまな活動に、継続的に取り組んでいきます。

医療情報の発信

コンテンツやアプリを通じ、継続的に医療に役立つ最新の情報を広く発信しています。また、疾患啓発や正しい情報の発信を目的とした疾病関連の市民公開セミナーへの協力・開催も行っています。2023年度はリウマチ、慢性腎臓病などの領域を中心に7回実施し、約500名の方が参加されました。

提供コンテンツとアプリ	取り組み内容
「ONO MEDICAL NAVI 患者さんご家族の皆さまへ」	身近な病気の具体的な症状や治療、普段心がけることを解説するサイトを運営
「ONO ONCOLOGY (一般・患者さん向け情報)」	監修医の協力を得て、がん領域の疾患や治療、がん免疫の概念を学ぶことができるサイトを運営 2023年度はがん患者さんの社会生活に着目し、アピアランスケアや働き盛りの就労支援に関する情報、家族を含めた様々なライフサイクルでの課題と取り組みについての情報を新たに追加
「バアちゃんの世界」	認知症啓発ショートムービーの提供
「ふくサポ®」 (副作用管理支援デジタルツール)	患者さんのセルフケアの向上、副作用の早期発見の手助けとなるふくサポアプリを無償提供 ・免疫チェックポイント阻害薬で治療を受けている患者さんが、日々の体調や副作用を管理アプリに記録することができます。医療機関に連絡した方が良いと考えられる症状がある場合、スマートフォンの画面上でアラートを表示します。また、ご家族の方などと記録内容を共有することも可能です

『Changeの瞬間（がんサバイバーストーリー）』

当社は、2020年4月より、がんサバイバーから学ぶ「今」と「未来」について情報発信するラジオ番組『Changeの瞬間（とき）』を提供しています。各方面で活躍されている著名ながんサバイバーをゲストに迎え、がんがわかったときの気持ちや、どんな想いでがんと向き合うようになり、どんなきっかけで前向きになれたのかなどを語っていただいています。がん闘う全ての方に希望のバトンをつなぎたいという想いを込め、番組を通して、がん患者さんやがんサバイバーを応援しています。



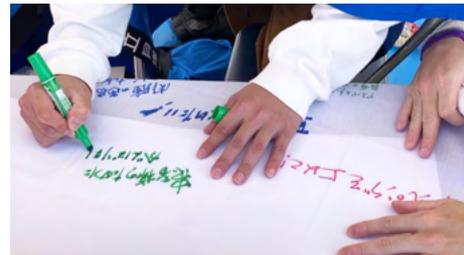
 2023年3月31日新聞広告（3.6MB）

リレー・フォー・ライフ

2014年度から、社会貢献活動の一環としてリレー・フォー・ライフ（RFL）に参加しています。リレー・フォー・ライフは、日本対がん協会とリレー・フォー・ライフの全国実行委員会が実施しているチャリティ活動であり、がんと向き合い、がん征圧を目的として、実施されているものです。当社の研究所や工場、営業所所在地エリアの開催場所を中心に、社員が積極的に参加しています。2020年度から2022年度は新型コロナウイルス感染症の影響により多くのエリアで開催が縮小・中止されましたが、2023年度からは各地での参加を本格化し、全国で305名の社員が参加しました。



2022年度から、リレー・フォー・ライフの会場に設置した当社のブースにおける新たな活動として「メッセージフラッグ」を始めました。参加者の皆さんに当社社員に伝えたい想いを「メッセージフラッグ」に綴っていただくことで、参加者の皆さんとのコミュニケーションにつながっています。今後もリレー・フォー・ライフを通じて、がん患者さんとそのご家族への支援を継続していきます。



また、新型コロナウイルス感染症禍の2020年から開催されている、オンライン参加型のセルフウォークリレー（SWR）にも参加しています。SWRはスマートフォンにアプリを登録し、がん患者さんを想ってウォーキングすることで、その参加費が、がん患者さんやご家族からの不安の声や相談に応じる『がん相談ホットライン』の運営支援に繋がるというチャリティイベントです。2023年度は全国473名の社員が参加しました。

スポーツを通じた長期療養児の支援



数カ月、数年、あるいはそれ以上の療養生活を送る長期療養児が日本全国に約25万人いるとされています。長い入院、辛い治療。そのために同世代と同じ経験ができないまま年齢を重ねていく子どもたちが多くいます。当社は、そんな子どもたちに寄り添い「長期療養を必要とする子どもたちに最高の子ども時代「青春」を実現するTEAMをつくる」活動を進めている認定NPO法人「[Being ALIVE Japan](#)」を支援・協働しています。2023年はBeing ALIVE Japanが開催した長期療養児を対象とした4つのスポーツイベントの開催に協力し、計43名の社員がボランティアとして参加しました。

9月には兵庫県神戸市・しあわせの村で、関西では初めてとなる「TEAMMATESスポーツキャンプ2023 関西」が当社単独支援により開催されました。1泊2日の日程で開催されたスポーツキャンプには9家族が参加され、子どもたちは大学の運動部やプロのアスリートによる手ほどきを受けながらラクロスやラグビー、カーリングなど未体験のスポーツにも取り組みました。当社からは19名のボランティアが参加し、スポーツの補助やご家族のサポートを行いました。また、このスポーツキャンプでは、薬を作る際の工夫を知り、薬に対し興味を持ってもらうことで薬との付き合い方が変わることを期待し、当社の独自企画「くすりのヒミツ・マナブ」も開催しました。白衣姿で実験に望んだ子どもたちは、錠剤を溶かす実験で薬が溶けていく様子を興味深く観察していました。

このスポーツキャンプについては読売新聞および読売新聞オンラインで紹介しています。当該記事は[こちら](#)からご覧いただけます。



闘病中の子どもたちへのスノーギフト

当社は2014年度より、病気とたたかう子どもたちのための夢の医療ケア付キャンプ場を運営する公益財団法人「[そらぶちキッズキャンプ](#)」（北海道滝川市）を賛助会員として継続的に活動をサポートしています。

2021年度からは新型コロナウイルス感染症の影響により、キャンプ運営を縮小せざるを得なくなった中で始まった新しい企画「スノーギフト」へのサポートを行っています。スノーギフトはキャンプ場のさらさらの新雪を箱に詰め、雪の降らない地域の医療機関に入院中の子どもたちに届けて雪遊びを楽しんでもらうという企画です。病院内でのスムーズな荷物の受け渡しができず、箱詰めの雪がとけてしまうケースがあったため、日頃から病院に訪問・活動している当社MR（医薬情報担当者）が宅配業者から荷物を受け取り、医療機関の担当者へ直接「新雪」を届ける「雪運びボランティア」としてのサポートを行っています。

2023年度は2024年1月～2月にかけて、13施設の医療機関において当社のMRが担当者に「そらぶちキッズキャンプ」からのスノーギフトを手渡しで届け、雪に触れる機会のない入院中の子どもたちに雪遊びの楽しさをプレゼントすることができました。後日、雪遊びをした子どもたちや保護者、医療スタッフから喜びの声や手紙が届けられ、参加した社員からは、「楽しさ（雪）を届ける」お手伝いできてよかったとの感想が寄せられました。



がん患者さんのメンタルヘルスケア活動（台湾）

台湾では、がんの心理的側面に焦点を当てた精神腫瘍学が注目され始めており、がん患者さんの心理的、社会的、行動的反応を理解して、治療を提供することが重要だと考えられています。この背景を受け、2023年度は台湾小野薬品が、「患者さんのメンタルヘルスケア」をテーマとした活動に、13名のがん患者さん（講演には45名の患者さんがオンライン参加）を招待しました。

精神腫瘍学の第一人者であるDr.方俊凱の講演を聞いた後に、多肉植物でリースを作る植物アートセラピーを実施しました。植物アートセラピーは、ワイヤーや植物、土など様々な感覚に触れることで感覚神経が刺激されるとともに、作品を作ることで感情を表現することができ、ストレス軽減に有益とされています。午後には、セラピーアニマルと触れ合う活動を実施しました。



がん患者さんの支援（米国）

ONO PHARMA USAでは、がん患者さんやがんサバイバーの方々を支援するため、様々な社会貢献活動に取り組んでいます。米国がん学会は、ボストンを含む米国の主要都市で治療を受けるため、長距離を移動するがん患者さんに宿泊施設を提供するプログラムHope Lodgeを運営しています。2023年度は、ONO PHARMA USA社員が想いを込めて作成したブランケットとメッセージカード、千羽鶴を寄贈しました。

また、血液がん治療の研究を支援するチャリティイベント「Light The Night」にも参加しました。前日には非 Hodgkin リンパ腫を克服されたサバイバーさんをオフィスに招聘し、社員に向けて、ご自身の診断と治療についてお話しいただき、製薬企業としての使命を強く認識しました。イベント当日は血液がん患者さんの支援やがん治療の発展を願い、ランタンを持ってボストン中心部の公園を歩きました。



小児がんの子どもたちとそこご家族の支援（韓国）

韓国小野薬品では、2023年度に小児がんNGO団体「[ハンビット愛の後援会](#)」を支援しました。韓国においては小児がん治療の主要な病院は都心部に集中しており、治療のために長距離移動を必要とする患者家族には経済的、精神的負担があります。ハンビット愛の後援会が運営する「ハンビット愛ハウス」は、入院、通院の際に小児がんの子どもたちとそこご家族が利用できる滞在施設です。

「患者さんの心のケア」を社会貢献活動のテーマとして、韓国小野薬品の社員が子どもたちやご家族への想いをメッセージやイラストで表現して作成したアクリルムードライトを、寄付金とともにハンビット愛ハウスに寄贈しました。



脳腫瘍患者さんの支援（英国）

寄付の文化が根付いている英国では、様々なイベントを通じて寄付が行われます。2023年度にONO PHARMA UKでは、がんと闘う患者さんを支援するためのチャリティイベントとして、社員が準備したお菓子やケーキをオフィス内で販売するイベント「THE BIG BAKE」を開催しました。その収益金は、脳腫瘍に関する世界最大の研究助成団体であり、脳腫瘍の認知度向上や早期診断を促進する取り組み、脳腫瘍に罹患した患者さんとその家族への情報提供などの支援を行っている団体「The Brain Tumour Charity」に寄付されました。



献血への取り組み

当社では、日本赤十字社の献血活動に積極的に協力しています。2023年度は水無瀬研究所、フジヤマ工場、山口工場および本社において、献血バスによる団体献血を実施しました。また、本社では併せて骨髄ドナー登録受付も実施しました。

あらゆる生命の存続に資する環境保全

当社の事業活動が自然に依存し、自然に影響を与えていることを認識し、生物多様性や気候変動などの環境課題の解決に向けて取り組んでいます。持続可能で豊かな社会の実現のため、新薬の研究・開発・調達・生産・流通・販売・使用・廃棄にわたるすべての段階において、生物多様性に配慮した活動を推進することが重要であると考えており、「[経団連生物多様性宣言・行動指針](#)」に賛同しています。

また、各事業所で、清掃活動や自然保護活動をはじめとするさまざまな地域社会貢献活動に取り組んでいます。

各事業所における取り組み

フジヤマ工場では、地域環境に配慮した活動として、定期的に工場敷地の外周を清掃するとともに、富士宮市各自治会の清掃活動「ごみ一掃作戦」および「富士宮市清掃運動」で使用するゴミ袋を提供しています。また、生物多様性の保全を目的として、工場敷地内の緑地（36千m²）の整備と、年4回、敷地内に飛来する野鳥の調査を実施しています。



フジヤマ工場での清掃活動



提供ゴミ袋



フジヤマ工場敷地内の緑地

山口工場では、有志を募り、工場周辺で開催された美濃ヶ浜の清掃活動「ビューティ美濃ヶ浜」と榎野川の清掃活動「ふしの川水系クリーンキャンペーン」に参加し、地域環境の美化に協力しました。



美濃ヶ浜清掃活動（5月実施）



榎野川清掃活動（7月実施）



本社および城東製品開発センターでは、毎年、大阪市が主催する市内一斉清掃キャンペーン「大阪マラソン“クリーンUP”作戦」に参加しています。2024年2月の清掃活動では、100名を超える社員が参加して、事業所周辺を清掃し、一般ゴミ、プラスチック類、缶、ペットボトル等、合計20キログラムを超えるごみを集め、分別廃棄しました。



大阪マラソン“クリーンUP”作戦

筑波研究所では、筑波北部工業団地企業連絡協議会に加盟しています。北部工業団地内の美観を保つため、加盟企業による年2回の一斉清掃に参加しています。また、研究所敷地内の緑地（55千m²）の保全も実施しています。



筑波北部工業団地内の清掃活動

水無瀬研究所では、全国名水百選に選ばれている水無瀬神宮境内の「離宮の水」保存会に加盟しています。後世に名水を継承するため、保存会が主催する年2回の一斉清掃に参加し、水汲み場および手水舎周辺を清掃しました。

子どもたちの健康につながる教育

当社は、未来を担う子どもたちの育成を支援するための教育活動に積極的に取り組んでいます。

理科の出張授業（薬のヒミツ・マナブ）

理科の学習や実験、ならびに薬への興味関心を高めることを目的として、小学校6年生を対象に薬をテーマとした出張授業を行っています。出張授業では、どんな人が研究に携わっているのかを子どもたちに身近に感じてもらうため、講師および実験サポートスタッフは、全て当社の研究員が担当しています。出張授業は、水無瀬研究所の近くにある島本町立第三小学校においては2015年度から、城東製品開発センターに隣接している宝栄小学校においては2019年度から実施しています。2023年度も、両小学校において出張授業を実施しました。授業実施後、児童からは、新薬が患者さんに届くまでに長い年月がかかることや、薬に様々な工夫が詰まっていることへの驚きのほか、「将来、研究者を目指したい」などの声もあり、出張授業が子どもたちに将来の職業を考えるきっかけになっていることを嬉しく思っています。参加した当社スタッフにとっても、地域社会とのつながりの重要性を再認識するとともに、児童の反応を直に感じることで研究者としての初心を思い出すなど、貴重な体験となっています。

年度ごとの参加人数	2021年度	2022年度	2023年度
児童	135名	123名	137名
講師・実験サポートスタッフ	17名	24名	28名
事務局スタッフ	9名	8名	6名

なお、出張授業実施後に、児童と先生、当社スタッフにアンケートを実施し、次年度以降のプログラム改善に活用しています。



宝栄小学校での理科の出張授業



島本町立第三小学校での理科の出張授業



高等学校でのがん教育に対する取り組み

文部科学省の学習指導要領改訂により、2022年度から高等学校においても「がん教育」が本格的にスタートしました。当社は、がん治療薬の研究開発、製造、販売を通じて人々の健康への貢献に取り組む製薬企業として、高校生にがんの正しい知識を身につけてもらえるよう、高等学校での「がん教育」に関する取り組みへのサポートを行っています。高等学校での出張授業は2022年度に2校、2023年度に3校で実施しました。

当社のがん教育に関する取り組みについては、[こちら](#)をご覧ください。



歯ブラシの寄贈

子どもたちの適切な口腔衛生習慣の定着促進に貢献するため、歯科用品の研究開発・製造販売業を営む当社子会社(株)ビーブランド・メディコーデンタル社の歯磨きセットおよび歯ブラシの寄贈を実施しています。「歯と口の健康週間(6月4～10日)」にあわせ、2023年度は歯ブラシセット3,629セット、歯ブラシ350本を寄贈しました。地域と企業が共に発展することを大切に、活動を継続していきたいと考えています。

所在地	対象	開始年	当社関連拠点
大阪府三島郡	小学校・幼稚園・保育所(2023年度は17施設)	2014年	水無瀬研究所
大阪市東成区	宝栄小学校	2018年	城東製品開発センター

一般財団法人舞台芸術センターと劇団四季主催の「こころの劇場」への協賛

当社は一般財団法人舞台芸術センターと劇団四季が主催する児童招待公演「こころの劇場」の趣旨に賛同し、関西ブロック公演への協賛を行っています。「こころの劇場」は、生命の大切さ、人を思いやる心、信じあう喜びなど、人が生きていく上で最も大切なことを、舞台を通じて子どもたちの心に語りかけることを目的に、日本全国の子どもたち(主に小学6年生)を劇場に無料招待し、演劇の感動を届けるプロジェクトです。新型コロナウイルス感染症の影響により、2021年～2022年は動画配信で実施されましたが、2023年は3年ぶりに劇場での招待公演が再開されました。



2023年『ジョン万次郎の夢』
撮影：阿部章仁